

三輪山真長寺文化財保存会だより

創立30周年記念特集号

令和7年4月1日発行 ●第58号 ●発行者：山口久夫 ●編集：三輪山真長寺文化財保存会

題字：真長寺前住職 三輪 醇證

真長寺文化財保存会 創立三十周年記念事業 『地域にある文化財の保存・活用を考える』

令和六年九月二十日から二十三日までの四日間、ぎふメディアコスモスにおいて、岐阜市と共催し、真長寺文化財保存会の創立三十周年記念行事を開催しました。その概要を写真とともに報告します。

フォーラム

九月二十二日 「みんなのホール」にて

第一部 創立三十周年を迎えて

〈会長挨拶〉(要旨)

真長寺文化財保存会 会長

山口久夫



三輪山真長寺文化財保存会が、平成六
年十一月に設
立され、今年
三十周年を迎
えるにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

この三十年間には、東京藝術大学や愛知県立芸術大学などのご指導のもと、日本文化財保護振興財団をはじめ、住友財団、十六地域振興財団、未来財団、文化庁、県市等の援助と大勢の方々の浄財によって、多くの文化財の修復を行ってまいりました。改めて感謝を申し上げる次第です。

国の指定重要文化財である釈迦如来坐像は、平安時代の作と言われ、定朝様式の木造彫像であり、丈六の釈迦如来坐像としては日本一と言われております。この仏像と釈迦堂の修復は、平成十一年に完了しました。合せて、真長寺に残されている鎌倉時

代から江戸時代の作とされる多くの仏画の修復と千三百点余りの古文書の読解がされてきました。

現在までに、仏画については、県の指定重要文化財二幅と市指定重要文化財十四幅をはじめ二十七幅の修復が完了しております。また、真長寺の古文書読解書は、創立十周年の記念事業をかわきりに、十五、二十、二十五、そして今年三十周年と、五巻を刊行いたしました。この古文書読解書には真言密教の修験道場として威勢を誇った真長寺を取り巻く様々な状況が、多分野に亘り克明に記されており、尊い歴史の生き証人として生かされていくものと思います。

その他、市の名勝としての指定文化財である枯山水石庭の管理や境内の環境整備、そして、年二回発行の保存会だより等刊行物の発行、それに五月の釈迦まつり、十月の観月会、十一月のもみじまつり等のイベントの開催を行ってまいりました。

こうして真長寺文化財保存会は三十年間活動して参りましたが、様々な課題を抱えております。現在保存会の会員は、法人個人を合せて二〇〇名ほどですが、高齢化等により年々減少する現状であり、また活動メンバーの高齢化や文化財の経年劣化に対する対応をはじめ、自然災害への備えな

ど、喫緊の課題を多く抱えております。将来に亘って、この文化財を保存・継承していくには、文化財に託された文化を暮らしの中で活かし、文化の薫り高い地域となる取組みが重要であり、同時に地域を担う子ども達を育てていく必要があります。そのため、イベント等の機会に、小学生から中高大学生と一般市民を対象に直接文化財にふれて学習していただくと共に、文化財を守るボランティア活動に参加していただく活動を、さらに進めて参りたいと考えております。今後とも皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げて、挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

山口会長に続いて、今回の記念事業の共催者である岐阜市を代表して、柴橋正直市長様から挨拶を頂きました。「岐阜市には、岐阜城や長良川鵜飼以外にも真長寺文化財のように多くの文化財や史跡が各地域にあります。これを大切に保存すると共に、市民の皆さんや県内外・外国の方にも見てもらえるよう保存や整備を進め、岐阜市の文化遺産や歴史を大切にす懐の深さを伝えていきたい」と語っていただきました。

その後、飛び入りの形で衆議院議員の野田聖子様からご祝辞を頂きました。「県議会議員の時代から何度も真長寺の文化財にふれ、その度に文化財保存に対するご住職の思いを感じてきました。そんな思いが多くの方々に伝わり、地域や人々にとって大切なものになるように」と心温まるお祝いと励ましの言葉を頂きました。

最後に、三輪隆證住職から、長年に亘る真長寺文化財保存会活動や支えていただいた多くの方々への謝辞を述べられました。